

「横浜都市デザインビジョン」の広報・普及について

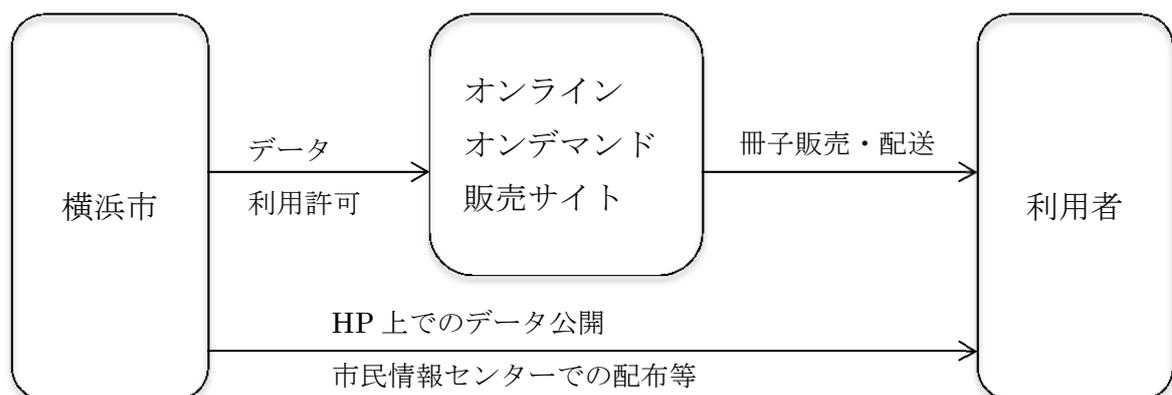
審議会においてご意見いただいた通り、本ビジョンは市の方針として公表するだけに留まらず、本ビジョンの主旨である個々がビジョンを描き取り組む都市となるために、まずは本ビジョンを知って頂く必要があると考えています。長期的には本編第 5 章(都市デザイン行政の取組)に沿ってじっくり一步一步取り組むことを基本とし、今年度は本ビジョン自体の広報・普及をテーマに、主に「冊子の刊行と流通システム構築」「外部評価の獲得」「イベントの開催」「発信メディアの構築」に取り組んでいます。

■本年度これまでの取組

- HP 上での公開 : <http://www.city.yokohama.lg.jp/toshi/design/udvy.pdf>
- 概略版の作成 : A4 横 / 20 頁 / 表紙 4C 本文 1C / 1000 部
- 子どもアドベンチャーへのプログラム参加とワークショップの実施 (別紙)
実施日: 8 月 19 日 参加者数: 8 名 スケッチ枚数: 2 枚
- 庁内向け広報メディア「UD 通信」での UD 活動の事例紹介連載開始

■今後の予定

- オンラインオンデマンド販売の導入による発刊 ※全国の自治体で初の試みです
前回審議会にて冊子化と販売の検討をご助言いただきました。しかし、これまで通りの方法で印刷・販売したのでは、手に渡る部数は限られます。さらには、在庫の管理・在庫スペースの確保・初期印刷コストなどが発生します。そこで、共創フロントテーマ型募集のしくみを通じて民間企業と協働し、オンライン上であれば全国どこからでもいつでも必要な部数だけ(1冊から)注文できるしくみの導入を目指しています。具体的には、オンライン上の特設ページにてクレジットカード等で本ビジョンを注文すれば、配送されてくるというものです。以後、局内の他の冊子についても導入を進める予定です。
価格は1500円程度(税込・配送料込)。サービス開始は9月上旬を予定しています。



- 日本語→英語翻訳 :10月中旬 HPにて公開予定
- 都市デザインシンポジウム(仮称)の開催 ※確定前の情報です。

テーマ:次世代の都市の使い方、境界のつくり方、など

日時:11月7日午後

形式:ラウンドテーブル形式によるディスカッション

その他:関内外 OPEN!への参加プログラムとして開催予定。

「OPEN!都市デザイン」をコンセプトに、議論テーマの事前募集や、イベント中出入り自由・議論への参加も自由な場にするなど、参加型のシンポジウムとして企画中です。

■習慣的・継続的な取組

- 庁内への普及・啓発:昨年度に続き入庁予定者向けWSの開催継続を検討中。

「UD通信」でのUD活動の事例紹介連載継続

- 冊子の配布:概略版の関係各所、企業、団体への配布

横浜まち歩き 日本大通り駅～横浜公園～横浜市役所

午後1時、日本大通り駅に集合した小中学生8名と家族の方々、都市デザイン室職員は、「日本大通り“歴史とデザイン”MAP」を手に、日本大通りから横浜市役所までまち歩きを行った。

まち歩きで最初にあった説明は、三塔ポイントで行われた。ここは、キング・クイーン・ジャックの名称で知られる、神奈川県庁・横浜税関・開港記念会館を一度に見渡せるポイントで、道路には目印となる半円が埋め込まれている。道路に目印を埋め込む際の決まりごとなど、街づくりに関する細かいルールを「大人の事情」として説明したことが、子供たちにはうけたようであった。

次の説明は、日本大通り駅のある交差点で行われた。この交差点では、クラシックな震災復興建築である横浜情報文化センターや、昭和初期の官庁建築の代表作である横浜地方裁判所を説明した。これらの建築物が、昔の建物をそのまま使っていたり、一部を残していたりするという説明を受けると、子供たちはもらったマップを見て、うなずきながら説明を聞いていた。

オープンカフェが設置された近くにある交差点では、オープンカフェ設置の説明や、日本最古の鉄筋コンクリート造のオフィスビルの説明、植栽の柵に関する説明が行われた。

横浜公園の入り口では、日本大通りを見ながら、歩きやすい空間をつくるために歩道を広げた説明を行った。また、横浜公園内にある解説プレートを見ながら、公園の歴史の説明も行った。

横浜市役所に戻り、庁舎1階のデザインの説明や、庁舎前にあるくすのき広場の説明を行ったところでまち歩きが終了した。



子どもアドベンチャー2015 No.78

Let`s都市デザイン!未来の横浜を描いてみよう!

実施日：2015.8.19 13:00-15:00 場所：横浜市役所・日本大通り周辺

参加者：全16名(うち小中学生8名) 担当：都市整備局都市デザイン室 野田・入江・眞田・結城

概要

こどもアドベンチャーとは横浜市教育委員会が主催している小中学生向けの職業体験イベント。都市デザインは「こんなまちでこんな暮らしがしたい」というそれぞれの思いから始まる。まちを巡って、未来の横浜の風景を思い、描くことを目的とする。

都市デザインワークショップ ～未来の横浜を思い描く～



次に行うのは「未来の横浜を思い描く」というもの。事前に職員が用意した、横浜市のエリア別7カットのスケッチの中から描き込みたい2カットを話し合って決定し、スケッチへの描き込みを進めた。ここで驚いたのは、参加者の多くが積極的に意見を交わしていたことだ。よく話し合いの場では黙ってしまうケースがあるが、想像とは裏腹に「自然が多いので考えやすそう」「この部分を生かしたい」と自分で考えて意見を言っていたのが印象的だった。

まず、みなとみらいなどが描かれているカットへの描き込みを行った。絵が苦手な人もいるため、参加者の意見を職員がスケッチに描き込んでいくと同時に、自分で描ける人はペンを持ってどんどん描き込むという手法をとった。様子を見ると、「地下に大きな秘密基地をつくりたい」といった独特な考えが飛び交っていた。とても楽しそうに想像力を膨らませて、参加者の意見が詰まった面白い臨海エリアが完成した。

次は郊外エリアのカットへの描き込み。先ほどの臨海エリアの描き込みの延長で進めたのもあり、初めから空や地下に手を加えていく子が多かったが、一部の子からは「山があるからロープウェイをつくって景色を見たい」といった、今までと違う発想もあった。しっかり考えてデザインしている子がいることに、とても大きな関心がうかがえた。最終的にはユニークな意見が多く取り入れられた、新しい郊外エリアが完成したと感ずる。

このワークショップを終えて、子供たちからは「とても楽しかった」「または是非参加したい」という良い意見が多かった。意見を絵にして1枚のイメージ画を考える、という手法は今までになかったが、とてもやりがいのあるワークショップだったと思う。参加者ならではの発想を目の当たりにして、もっと柔軟に物事を考えていくことも大切なのだな、と改めて感じた。

